



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

祭儀収入を確認しその徹底を約束

二度の会議で教区司祭団

教区会計の主な収入源の一つである祭儀収入について四月八日(月)と六月二十四日(月)の教区司祭団会議で話し合われた。その理由は①新しい司祭に祭儀収入について知ってもらおうこと②過去十年間のデータを見る限りその理解に小教区で温度差があること③二〇一四年度から信徒に維持費の増額を望んでいる限り、教区司祭でもできることを探ることが挙げられる。

「教区司祭地区財務管理規定 一部改正」の祭儀収入についての事項の確認を行った。そこには「(1)洗礼、結婚、葬儀、祝別等の謝礼金は、一旦小教区会計に計上しその全額を教区会計に納付する。ただし、結婚、葬儀等の式に当たって、小教区に諸経費を納める定めがある場合はその経費を差し引いた額とする。(2)納入方法は年四期毎に納入する。」とされていた。

六月二十四日の教区司祭団会議では、前会議で決定が再検討とされていた「司式司祭は結婚、葬儀、洗礼、祝別等の謝礼の中からその一部を受け取る

ことができるか」について話し合われた。様々な意見が出されたが、話し合いの結果、司式司祭は謝礼等は一切受け取らないことと決定した。

教区司祭たちがその認識に差があった祭儀収入について話し合いを持つことができたことは有意義であった。今後は祭儀収入についての原則を堅持しそれを徹底することが求められる。祭儀は教会の大切な魂、だからこそ、その収入については、その透明化と有意義な活用が必須である。

私たちの希望

教区神学生紹介

司祭叙階に近い順に教区神学生を紹介したい。

▼パウロ貴島丈弥神学生
は聖カルロス大神学院(フイリピン)神学科三年。この八月十一日、祭壇奉仕者に上げられる予定。

▼フランシスコ・パク・チャン・キユ神学生はインチョン大神学院(韓国)神学科四年。三月二日に着衣式を終え、現在夏休みで八月九日まで教区本部に滞在し日本語学校に通う。

▼ボグスワフ霧島彬神学生は始良教会出身。二〇一二年三月京都大学を卒業し文学修士を取得。七月二十六日にローマに向かい教皇庁立聖十字架大学に留学。

▼ヨゼフ田代竜之神学生は長崎コレジオから長崎純心大学に通う。現在、人文学部現代福祉学科の三年。卒業後大神学院入学予定。

この人 さようなら、鹿兒島の皆さん W・フリチエル神父

先日、ひよっこり教区本部を訪ねて下さったのは八月十一日に日本を離れるというレデンブートル会のW・フリチエル神父(谷山教会協力司祭・八十六歳)。

五十七年もの長い年月を日本で、しかもそのほとんどを鹿兒島教区のためにささげてきた。日本人より日本人らしいと言う人もいるほどで、なじみのラーメン店では言わずともおかわりの漬け物が出されるし、寿司屋でも生薑をポリポリ：ユニークな外国人として知られていた。

最近は少し左腕がこわばって動きにくいというものの司祭叙階から五十八年、初誓願宣立から六十四年になる現在も修道者の指導と早朝のミサを担当しているという元氣者。今回のドイツへの帰国の決定は、同じ会の兄弟たちの思いやり。少し糖が出る

ようになったという年老いた神父の老後を環境のよい場所というもので、フリチエル神父は帰国後、バイエルン州のガルス修道院で生活する。鹿兒島とは違い、毎日医師が訪ねてくれるなど、老人や病人の世話をしてくれる環境が整っているという。あちらの管区長からは「喜んで迎える」との返事を受けているものの「帰国が近づいて悲しい」とフリチエル神父。これまで働いて来た加世田、枕崎、川内、徳之島、出水などなどの多くの思い出に後髪を引かれるのだという。でもさすがは修道者、「ガルスから派遣されて、またガルスにもどる。これも何かの縁」と結び、「さようなら。鹿兒島の皆さん」とニコニコ微笑んだ。



「さようなら、鹿兒島の皆さん」とニコニコ微笑んだ。

ザビエル上陸記念祭

八月十五日(木)

- 第一部 ザビエル巡礼ウォーク 午前八時 祇園之洲上陸記念碑前出発 記念ミサ
- 第二部 午前十時三十分 ザビエル教会 平和の鐘を鳴らそう
- 第三部 ミサ後、ザビエル教会

▼パウロ大田聖神学生は福岡コレジオから福岡市の九州産業大学に通う。一年生。現在、鹿兒島教区には教区大神学生が三人、小神学校と大神学校の間をとりもつコレジオ神学生が二人いるが、残念なことに小神学生はいない。紹介した神学生たちのためにはもちろんのこと、これからも召命のために祈って欲しい。

洗礼と初聖体に沸く 鴨池教会

六月三十日(日)鴨池教会で郡山司教司式のミサがささげられ、その中で司教

台湾から司祭団巡礼 谷山教会

六月二十七日(木)台湾原住民の司祭団が谷山教会を訪問した。これは六年前に谷山教会の信徒たちが台湾を巡礼したことからの縁ができたもので、この折には原住民の曾司教の案内で山岳地の教会を訪れ、民族衣装をまとった大勢の信者の温かいもてなしを受けた谷山の巡礼団だった。それから三年後には、曾司教は二十人の信徒たちと来日、その際にも谷山教会、ザビエ



長い人生の中で最も神聖なこの時を共に祈ることができたことは意義深いことだ、心からのお祝いをした鴨池教会だった。ミサ後は茶話会が催され、この日足を運んで来た宮崎県や吉野教会の方々と交流を深めることもできた。集まった喜びの信者たちに司教は「それでも喜び、希望、感謝をあらためて心にしつかり刻み、これからも信仰を深め、日々精進していこう」とメッセージを送った。(報告・前田儀子)

ル教会を訪れ、鹿兒島の信者たちと交流、東日本大震災後には台湾からも支援と絆を深めて来ていた。今回谷山教会を訪問したのは曾司教と原住民の司祭十七人、これに司教秘書一人、台湾での司牧経験がある日本人司祭一人の二十人。二十四日に台湾を立ち、福岡、長崎、天草を巡った後、鹿兒島にやって来た。二十七日夜開かれた歓迎会は、留学生、華僑たちを含め総勢百人の賑わいとなった。その席で曾司教は「息抜きと先進国日本の教会の取り組みを見るために来た」と挨拶した。

谷山教会の信者たちがハンドベルやフラダンス、主任司祭の三味線の余興で心ばかりのもてなしをする。巡礼団は出身部族の歌と踊りを披露してくれた。翌二十八日には巡礼団はザビエル上陸記念碑を訪問した後、ザビエル教会で台湾司祭団司式の荘厳なミサをささげ、その後郡山司教を交えて交流会があった。台湾の司祭たちからたくさんのお話をもらった谷山教会だった。(谷山教会レポート)

神が全能であるとは「神は何でもしてくれる」ということと違うのであれば、私たちの祈りは無駄なことなのではないか。また、「どうして私はこんなに辛いのか」という神への問いは成り立たないのでしょうか？

確かに、前回、前々回の内容からすると神への祈りや問いかけは無意味で、虚しいものと思えてきます。しかし、ヨブ記を思い出し、祈る人や問いかける人は神に無関心な人とはまったく

違う生き方をしているのです。その生き方の違いとは、神を信じて生きる人はいつか神と出会う可能性に開かれている、ということ。旧約聖書が書かれたはず

全能の神—イエスと共に歩む

鈴木神父のやさしいみことば

が使われます。この言葉から、神を信じる者の歩みとはポートを漕いで進むことに喩えられることもありま

の。だからこそ、パウロはテサロニケへの手紙の中で「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることで

「天地の創造主全能の父である神を信じます」という信仰宣言の冒頭は、創造と終末を担い、それと同じく私たちの始めから終わりまで愛をもって支えてくれている神様を信じるとい

与え下さい。」子どもたちが成人するま

れが「頭だけではなく、身体全体で、少しでも神の家に近づいて行こう。きつと私自身を探す道につながるはず」と思い参加したのは巡礼です。神と出会うため、日常生活を離れて旅に出る。ペトロ岐部の巡礼地を皮切りにレオ七右衛門殉教地、甕島ドミニコ会足跡、日本二十六聖人殉教祭、時間や空間を超えて仲間と共に五感で味わう旅は改めて信仰の喜びを知る大きな体験となりました。

北薩カトリック大会での体験発表①

はい。主よ、喜んで！

出水教会 前 芙美子

新聞、ラジオ、テレビなどで人物紹介をするとき、キリスト教の信者である宗教家であるなしにかかわらず「敬虔なキリスト教徒の〇〇さん」と紹介されま

人、本当にカトリック？」なかなか夫を理解できなくて、長い間、私は耐えるために信者になったのだろうかと自問自答してしま

持つてくるように指示されていきました。当日のことです。

「成績表は？」
「持つて行くかよ！ そんなもの」
「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

き乙女の頃がありました。洗礼を受けたその頃、「洗礼の秘跡を受けた人は、きつと漂として生きていくに違いない。私もそんな家庭を築いていこう」と夢に見ていました。でもやはり夢

人、本当にカトリック？」なかなか夫を理解できなくて、長い間、私は耐えるために信者になったのだろうかと自問自答してしま

持つてくるように指示されていきました。当日のことです。

「成績表は？」
「持つて行くかよ！ そんなもの」
「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と

「えー」
「あんな成績表見せたら、試験官たち目眩するぜ」
「じゃあ、成績表はどこ？」
「あれは大学の食堂に貼ってある」
「何のために？」
「あれを見ると、みんな元気になるんだ。希望が湧く。人のために役立つという成績表なんだ」
とても上品とは言えない、なんか底抜けの家族と



文芸

短歌

鹿兒島純心 川上 和
島染める新たな一日半夏生み手のはから
いこの日を生きる

鴨池教会 前田 儀子
深き信仰に満たされていた妹の生涯を思
ふ眠られぬ夜半

出水教会 遠竹 睦郎
ゆるしの秘跡説く鹿兒島の名誉司教の講
話の言葉脳裏に残る

上方に住む吾が姉に電話にて主にまかせ
よの聖歌歌ひぬ

俳句

鹿兒島純心 川上 和
日盛りの祭壇うるわし初聖体

純心学園 山頭 信子
刀豆の笠竹登る夏の雨

デッサンのきまらぬ夜や百合の散る

食卓に大きなみかんころがして

鹿兒島市 徳永ノブ子
朝涼に朝の祈りの日曜日

主のめぐみ命つなげる酷暑かな

緑蔭の風揺れぬし立ち話

国分教会 政 ノブ子
新緑やマリア山荘司祭訪う

梅雨一日西郷どんの愛を知る

(ミサとパネルディスカッションに参加し

て)

高齢信徒共同生活の場「聖の郷」

入居者、賛助会員、ボランティア募集

NPO法人聖の郷ゆらいあい(理事長・泉浩二神父)が二〇一一年四月



入居者もゆらいあいも皆でミサに参列

にオープンさせた高齢者共同生活の場「聖の郷」(鹿兒島市唐湊二丁目十一番一)では、現在、入居者と賛助会員、そしてボランティアを募集している。

「共生」「協働」「奉仕の心」をモットーに信仰を持つ高齢者が互いに助け合いながら生きていくことを始められたこの施設、現在、七十九歳から九十三歳までの女性四人が祈りのうちに仲良く生活している。

ここではトイレや風呂は共同だが、それぞれ

それぞれの個室で生活がなされる。また居住者たちは毎日のミサにあずかり、週に三日は皆でロザリオの祈りにいそいでいる。費用は食事がついて月十二万円(電気代は別)、入居金五十万円。

またそんな彼女たちの生活を少しでも有意義なものにしようと食事の世話などを担当しているのは約二十

人いるというボランティア。ボランティアの働きの負担



食事の準備に忙しいボランティアたち

伝統の聖母行列と清掃活動

創立八十周年を迎える鹿兒島純心女子学園

五月二十五日(土)、今年創立八十周年を迎える鹿兒島純心女子学園で聖母月

の最後を締めくくる恒例の聖母行列が開催され、中高・短大生を中心に約千五百の参加があった。鹿兒島純心は一九三三年にカナダ、アメリカで教育活動に携わっている聖名会により聖名高等女学校として創立され、一九四一年に長崎純心聖母会が経営を引き継ぎ現在に至っている。

聖母行列は終戦後に純心の江角ヤス初代会長が世界平和を願う行事として長崎純心で始め、鹿兒島でも一九五四年から続けられている。この日の聖母行列では泉浩二神父(鴨池教会)を先頭に祈りや聖歌を繰り返しながら学園内を行列した

後、体育館に設けられた祭壇で花をささげた。この中にはザビエル、鴨池、谷山の教会から参加した約五十人の教会学校の子どもの姿もあつた。

同学園では午後からは聖母月の奉仕活動として高校一年五組二十五人(担任・辻)がザビエル教会を訪れ、



アン主任司祭の講話を聞いた後、教会敷地内とザビエル公園の清掃をした。(報告・辻聡)

会と催し (8月)

3日(土) 黙想会「イエズスに近づいて」・キッペス神父・マリア山荘・4日
▼ルーション神父命日(一九九四年)年間第十八主日
▼レヒナ神父叙階記念(一九六〇年)子ども聖書学校(夏休み合同キャンプ)・マリア山荘・6日

6日(火) 主の変容
▼日本カトリック平和旬間始まる・15日
▼小平卓保神父命日(二〇〇五年)聖ラウレンチオ助祭殉教者
10日(土) 年間第十九主日
11日(日) 聖母の被昇天
15日(木) 「ザビエル上陸記念祭」ザビエルウオーク・祇園之洲・8時出発、上陸記念ミサ・ザビエル教会・10時30分

18日(日) 年間第二十主日
19日(月) 夏期集中講座・ザビエル教会ホール・23日
24日(土) 聖バルトロマイ使徒
▼カトリック医療関連学生セミナー・教区本部・25日
25日(日) 年間第二十一主日
28日(水) オーバン神父命日(一九八八年)
30日(金) ペルリーニ神父命日(二〇〇八年)

祈りの意向
【フベナ】ザビエル祭に向けて一人ひとりが宣教師となるために
【祈祷の使徒会】一般・親と教師
宣 教・アフリカの教会
日本の教会・平和の連帯

司教執務室だより

弱者の信仰宣言に学ぶ



「まだ見えなくてもあなたの道は必ずある。」先日、贈呈を受けた本のタイトルだ。CD付きとあったので早速聴いてみた。作曲者のシスター自らが歌う透き通った声は、文字通り天使の歌声。興味深かったのは「弱者の信仰宣言」最初の一節だけ紹介しよう。

成功を収めるために神に力を願ったのに、弱くなってしまう。謙遜を学ぶように。偉大なこと、幸せ、人助け、人からの尊敬などなど、良かれと思つて願ったことがことごとく裏目に出た。そして、その度に新しい気づきをしながら、神様の愛の深さに気づくに至って、「弱くて何もできないけれど、喜びに満ちあふれて私は歌う」と結ぶ。

全く逆の結果ばかりを手にする辛い現実には直面しながら、神様の思いの深さに少しづつ触れていく。そして、傷つき、戸惑いながらも、小さく狭い自分の価値観の扉が、普遍的な神様の世界に向かっ

て少しずつ開かれていくというモチーフは、ペーソスに満ちていて、心がじんわりと温まって行く感じだ。しかし、どこか、たしなめられているような気持ちにもなつて、親の心にも疎い自分にも思わす下を向きたくもなつた。

とここで、日本にしろ、世界にしろ、世の中は、私たちの思いとは裏腹な現実で覆われている。平和を願っているのに、相変わらず分裂と争いは止むことなく、幸せな生活を願っていたにもかかわらず、原発で家族が壊され、貧富の差はひどくなつていく。こうした、自分一人の手には余るような現実だけでなく、一人ひとりを取り巻く家族や隣人の現実にしても、あまりにも想定外の悲劇を自らの手で繰り返している。

冒頭の歌は、作者不詳だということだが、私たち一人ひとりが、自分の現実の前に佇みながら新しい「弱者の信仰宣言」の作詞者になつていくことを求めているように思う。そうした歩みこそが、身の丈の平和を築き、弱いながらも力いっぱい神様を賛美することができるに違いない。世界の平和も一歩から、だ。

+KABAYAN SEKSIYON+

Pananampalataya: Tatlong Mahahalagang Elemento

Bilang tapat na pagtugon sa panawagan ni Benedicto XVI sa Taon ng Pananampalatay, ilang mga paghinay ukol sa mayamang kahulugan ng pananampalataya ang naging handog sa serye ng mga katesismo mula sa Sambuhay. Totoong malawak ang mga katawagan at mga larawang magpapasilip sa handog ng Diyos sa atin na pananampalataya. Posible nga kaya ang isang simpleng pagbuod o pagsasalansan? Palaging kabilang sa pananampalataya ang:

INTELEKTUWAL AT NOSYONAL- kabatiran ULO-Doktrina

PAGGLIWI AT PAGTITIWALA- paghubog/magbanyuhay PUSO-Debosyon

ISINABUHAY sa mga GAWA-PAGPAPATOTOO- pagkilos MGA KAMAY-Mga Gawa

Sa ensiklikal na Spe Salvi [2,4,10] malimit ipahayag ni Papa Benedicto XVI na ang mensahe at pananampalatayang Kristiyano ay hindi lamang 'kabatiran' kundi 'pagkilos' Tano ng ng Santo Papa: dahil sa ating pananampalataya, nagaganap ba ang mga bagay? Sadya nga ba itong nakapagpa panibago ng buhay.Tanungin nating lahat ang ating mga sarili: gaano ang pagkahinog at pagkabuo ng aking pananampalataya?Dumalangin tayo sa piling ng mga apostoles: "Panginoon, dagdagan mo ang aming pananampalataya" (Lu 17:5).

Sa katotohanan, ang ating mga pananampalataya ay hindi pa sapat, hindi pa matatag at hindi pa nagiging malakas. Kaya ang mga salita ng ipinahayag sa atin sa ebanghelyo ni San Lukas na ang mga alagad mismo ni Jesus ay nanalangin na dagdagan ang kanilang mga pananampalataya dahil hindi pa nga matatag at malakas.

Tulad nating lahat, hindi pa rin matatag kaya sa mga panahon na nagkakaroon ng mga pagsubok madali tayong sumuko sa kahinaan ng loob. Kung minsan parang di na natin nararamdaman na wala sa piling natin ang Diyos na sinasamba natin.Parang bang napakalayo niya sa atin.

Subalit ang Diyos ay napakalapit sa mga taong hindi nawawalan ng pag-asa sa kanya, bagkus sa gitna ng mga pagsubok nandidiyan pa rin ang kanyang paniniwala at pananampalataya sa Diyos na hindi natin nakikita pero nasa piling natin siya dahil nakikita niya tayo at naririnig ang mga hinagpis natin kung tayo ay dumaraing sa kanya.

Hindi niya tayo pinapabayaan sa kalagayan na kung titingnan natin ay walang pag-asa na tayo, na para bang pinabayaon niya tayo sa mga kalagayan natin. Sa katotohanan nandiyon siya sa ating tabi,naririnig niya ang ating mga panalangin at hinagpis, kaya huwag tayong mawalan ng pagtitiwala sa Diyos.

Katekismo sa Taon ng Pananampalataya (Fr.Dino Orloff)

一 シドッチ神父列福に
ついて

高山右近列福運動が、朝日新聞にも取り上げられ(七月十一日)、本当によかったですね。七月十日付けカトリック新聞には、大々的にヨハネ二十三世とヨハネ・パウロ二世が共に列聖されるニュースがトップ記事として取り上げられています。鹿兒島教区では、屋久島に上陸したシドッチ神父が列福されるよう郡山司教さまが、運動を推進していかうとなさっておられます。レオ七右衛門に次ぐ、鹿兒島教区の福者をお願いしたいですね。キリシタン担当の溝部司教さまをはじめ日本司教団のお力、パチカンのみなさまのお力をいただき、鹿兒島教区が一丸となって、推進していかうことを願っています。

がついていくことになりませぬ。

二 小西行長と世界とのつながり

「世界とつながっていく」といえば、小西行長の名は、日本ではあまり知られていませんが、実はヨーロッパでは世界人として知られていたのです。彼は、アゴステイニオ(アウグスティヌス)という霊名を持ち、その名前はイエズス会年報によってパチカンに通知されており、社会福祉活動に尽力した慈善家としても知られていたのです。先日、東京教区が主催し毎年開催されている「おたあジュリア祭」の責任者の信徒の方が、マリア山荘にいらして

キリシタンの歴史⑬

小西行長と大友宗麟(3)

溝辺教会主任司祭

坂本 進

また、シドッチ神父は、当時の幕府最高顧問であった新井白石の取調べを受け、キリシタン屋敷(現お茶の水女子大近く)に幽閉されていたことから、東京教区の協力を仰ぐことも必要でしょう。国分教会のサンタマリア神父さまと同じイタリアのシチリアが、シドッチ神父さまの故郷でもあることから、サンタマリア神父さまをはじめザベリオ会(八代)の神父さまのご指導をいただくとともに、日本に

くんだり、行長の養女であり、キリシタンを棄てなかつたため、神津島に流罪となつたおたあジュリア(韓国人)のことを、お話ししてくださいました。行長の縁は、いろいろな地につながりをもたせているんですね。東京(神津島)、熊本(八代)、鹿兒島(大坂(堺)、ローマ)とつながっているんです。

熊本の八代は、行長の領土であった所です。行長は、太閤秀吉から肥後半国(八代)を与えられたのです。残りの半国(熊本)は、加藤清正に与えられていました。清正は関ヶ原の合戦で、行長が敗死した後、八代のキリシタンを弾圧しています。清正によって迫害され殉教した人々のために、八

代カトリック教会では、毎年、十二月第一日曜日に、八代殉教祭が行われ、追悼行事が行われているのです。昨年、鹿兒島から八代殉教祭に十数人の方々と、参列いたしました。

そして、鹿兒島には行長の娘で島津家に嫁ぎ、キリシタンを島津の武士たちに布教、キリシタン禁教にも屈せず、処罰され種子島に流刑されたカタリナ永俊尼がいます。大坂の堺は小西家の実家がある所です。鹿兒島、東京、八代、大坂、堺、さらには、養子に出され十数年を過ごした宇喜多家城下の備前(岡山)の地、そしてジュリアの祖国・韓国、及びローマ、これらの地が、行長とつながっている

日のりりしい三浦友和が扮して好演していました。その秀家の妻が、前田利家の娘、著名な豪姫です。豪姫は、高山右近に導かれてキリシタンになっていきます。家老・明石掃部もキリシタンで、大坂の陣敗北後、カタリナ永俊尼を頼って、薩摩に來たと言われています。小西家の家臣たち・豊臣の残党たちも、カタリナ永俊尼を頼り薩摩に落ち延び、その後、天草・島原に潜行して「天草・島原の乱」に加わることになっていったのは、みなさんご承知のことです。宇喜多秀家は、関ヶ原の敗北後、江戸・八丈島に流され、五十年生き続け、一六五五年八十三歳で死にました。妻の豪姫は、

再会できたのです。二人のために、お祈りを捧げてください。

三 面従腹背
行長について書かれた本、資料は、カトリック教会の内外に、多く見られます。その中で、信仰的視点から深い洞察を与えているのは、やはり遠藤周作の『鉄の首枷』が一番ではないかと思えます。この小説の中で、遠藤氏がテーマとしているのは、「弱さを持つ人間の信仰のありかた」と「神と関わった者を、神は問題にし続ける」というテーマです。

四 加藤清正と小西行長
遠藤氏は、行長と行長の宿敵となった加藤清正との関係を『宿敵』などの小説で扱っています。世の中には、どうしても「そりが合わない」「虫が好かない」という人がいますね。加藤清正と小西行長の間柄がそれでした。神様は、「そりが合わない」者同士を、どう導いておられるのでしょうか？ 武功で豊臣家の重臣になっていった清正と、石田三成と共に行政・財政的手腕で重臣となっていた行長とは、油と水のような関係が続いていました。その関係は、死んだ後までも続いていったのです。行長憎しの感情は、行長の死後も、行長が信仰していたキリシタンへの弾圧という形で継続されていったのです。清正は、キリシタンを弾圧していましたが、他方、情に厚く義侠心のある武将として慕われてもいたのです。熊本築城をはじめとして軍事技術の能力に優れ、熊本に清正堤を築いて民政にも力を尽くしました。人間には、多面性があるので、清正が、今、生きていたら、私は清正の人柄を好いてもいるので、清正と話し合いたい、彼をキリシタン・シンパにさせたいと思っています。

イェズ会のチースリク神父さまは『キリシタン史考』の中で、行長の死に方に言及されておられます。それは武士は通常、死に臨む時には切腹します。とこ

ろが、行長は「自殺はキリシタンの教えに反する」と言って、断り通し続けたのです。このように断り続ける態度が、当時の武士社会にあつて、いかに難かしい生き方であったかは、想像を絶するものがあります。

行長は、『卑怯者、不名誉な腰ぬけ侍』とあざけられながら、あくまで生き抜くことを求め続けたのです。「ここに、信仰者としての最も立派な証がある」、そう、神父さまはおっしゃってられました(『同書』一一一―一二頁)。ほんとうに、そうですね。行長は、一八八七年に、右近が信仰を守り処罰された時、自身を「面従腹背」のふがいなさをオルガンティノ神父に告解しています。そして、その償いとして、以後キリシタンを保護し、自身もキリシタンの生き方を忠実に守ることを誓ったのです。行長は、死に臨んで、キリシタンの信仰を守り通し、御国に移されていったので



鉄の首枷
小西行長伝
遠藤周作
中公文庫

加賀前田家に戻された後、家康に、八丈島で罪人となつている秀家に不足がちな食物を加賀から送ることの許可を十年間懇願し続けました。その甲斐あつて家康は折れて、許可するに至つたのです。八丈島には、秀家と豪姫が寄り添っているように並んで彫られている銅像が十四年前建立されました。二人は四百年ぶりに

り方があると同時に、行長のように「面従腹背」しながら、キリシタンを陰ながら援助していきながら方もあるのです。そのように遠藤氏は言いたかったのしょう(『鉄の首枷』中公文庫 二四三頁)。

るが、行長は「自殺はキリシタンの教えに反する」と言って、断り通し続けたのです。このように断り続ける態度が、当時の武士社会にあつて、いかに難かしい生き方であったかは、想像を絶するものがあります。

行長は、『卑怯者、不名誉な腰ぬけ侍』とあざけられながら、あくまで生き抜くことを求め続けたのです。「ここに、信仰者としての最も立派な証がある」、そう、神父さまはおっしゃってられました(『同書』一一一―一二頁)。ほんとうに、そうですね。行長は、一八八七年に、右近が信仰を守り処罰された時、自身を「面従腹背」のふがいなさをオルガンティノ神父に告解しています。そして、その償いとして、以後キリシタンを保護し、自身もキリシタンの生き方を忠実に守ることを誓ったのです。行長は、死に臨んで、キリシタンの信仰を守り通し、御国に移されていったので

ザビエル書院 ボランティア募集!
ザビエル書院では、書籍等の販売はもとより、ちよっとした教会案内をして下さるボランティアを募集しています。現在特に月・火・土曜日の午前10時から午後1時半までが人手不足ですが、その他の曜日、時間帯でも結構です。可能な方、ご連絡下さい。
☎099(226)2430 山田敏子